令和4年度　学校評価結果

上尾市立尾山台小学校

【評価の見方】
４…大変そう思う　　３…そう思う　　２…ややそう思わない　　１…全く思わない
A　（平均３．４以上）　達成できた　　B　（平均２．８以上３．４未満）　概ね達成できた　C　（平均２．８未満）　改善の必要あり
※総合評価については、後期数値の平均値によってＡ～Ｃ評価の判断をする。
◎成果　　▲改善点　→改善策

評価の観点			自己評価					学校関係者評価
		項　　目	前期評価	前期数値	後期評価	後期数値	総合評価	
Ⅰ 学校運営	1	校務分掌が明確で、協働体制が構築されている。	B	3.3	B	3.3	A (3.64)	【適正である】 ・令和5年度に関して、本年度よかった取組を同様にしていけたらよいと思う。 ・事前に資料を回覧する等の工夫が見られ、時間をうまく使っていることが分かる。時間外在校等時間の減少につながると思う。
	2	各会議の効果的な運営がなされ、共通理解が図られている。	A	3.4	A	3.5		
	3	学校の特色、実態に即した学校行事計画となっている。	A	3.6	A	3.8		
	4	学校の特色、実態に即した日課となっている。	A	3.7	A	3.8		
	5	個人情報等が適切に保管されている。	A	3.7	A	3.8		
	◎生徒指導・教育相談体制が整い、児童・保護者へ迅速に誠意をもって対応することができた。 ◎職員会議前に資料を回覧し、意見を交換しておくことで、職員会議時間を大幅に短縮できた。 ◎電子日報を活用し職員集会を週2から週1に減らす、学期末の通知表事務期間に会議を外すなど効率的な働き方の工夫をした。 ◎日課を見直し、登校後の時間にゆとりが出たため、児童が落ち着いて朝の用意ができている。 ▲教科・領域等の部会は、固定日ではなく必要な時に開催できるシステムにしていく。 →システムの変更 ▲分掌会議においても事前に資料を配付し、部会の時間はすぐに意見を交換できるようにする。→ルールの確認 ▲第3学年の6時間の日を、疲れが出やすい金曜日ではなく、月曜日にするとよいのではないか。→日課の変更実施						
Ⅱ 教科等の指導・研修	6	教育目標を具現化し、取り組んでいる。	A	3.4	B	3.3	A (3.45)	【適正である】 ・褒めるというのは本当に難しいことだと思う。一人一人違うので、教職員は大変な苦労をされていると感じる。 ・ICT機器を使っての授業で児童の視力が悪くならないか心配もある。 ・オンライン教育は教える側の苦労もあるだろうが、今後も推進をお願いする。
	7	児童が活躍し、分かる授業のための創意、工夫を行っている。	A	3.4	A	3.5		
	8	ICT機器を積極的に活用した授業を実践している。	A	3.7	A	3.5		
	9	教育課程の適切な編制と実施がなされている。	A	3.6	B	3.3		
	10	教育活動全般において、ほめる教育を推進している。	A	3.5	A	3.6		
	11	校内研修（研究）に主体的に関わり、研修（研究）を深めている。	A	3.4	A	3.5		
	◎教育目標「明るい子、考える子、たくましい子」の具現化に向け、日々の学級指導、生活目標や各種便りを通して意識を高めた。 ◎単元内自由進度学習、学習者用端末を活用した授業、少人数指導、TTなど、様々な学習方法を取り入れることで、分かる授業の工夫をした。 ◎全学年のあらゆる教科等の授業でICT機器を日常的に活用し、児童の学習意欲の向上に努めた。 ◎いつでもオンライン授業配信ができる体制を構築した。 ◎課題研究を通して、新たな指導方法を学び、児童理解を深めた。 ▲カリキュラム・マネジメントの視点から教育課程を見直す。 →課題研究とも関連付けた見直しを実施 ▲行事に関わる時数を見直し、授業時間を確保する。 →授業時数確保で調整 ▲道徳や人権教育など、季節や行事に合わせた教材の編成とする。→教材編制の見直し実施（道徳・人権教育部）						

Ⅲ 児童理解	12	一人一人の児童理解に努めている。	A	3.6	A	3.9	A (3.87)	【適正である】 ・小規模校ならではの見守りがすばらしい。 ・小規模校の単学級なので、いじめ等の人間関係の修復は大変だと感じる。一番心配している。
	13	いじめの未然防止、早期発見に向けた取組を行っている。	A	3.7	A	3.8		
	14	関係機関と連携した生徒指導・教育相談体制が整備されている。	A	3.6	A	3.8		
	15	問題行動に対し、組織的な対応を心がけている。	A	3.7	A	4.0		
	◎小規模校のよさを生かし、全職員で全児童を見守ることができた。 ◎日頃から小さな変化も見逃さず、全職員で情報を交換し、いじめの未然防止や早期発見に努めた。 ◎教育センター、さわやか相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を密に行い、支援の必要な児童・保護者への対応を継続して行った。 ▲毎月の生活アンケート等をもとに、児童の不安を取り除ける対応を考え長期的に見ていく。 ▲ABプラン、アセスメントカードによる連続性のある支援の確立。 ▲一人一人の児童理解に努めてはいるが、単学級のため人間関係の修復が難しい面がある。 ― 職員研修を重ね、組織で重点的に取り組む						
Ⅳ 安全・健康	16	安全指導を計画的に行い、児童の防災意識の高揚を図っている。	A	3.5	A	3.8	A (3.66)	【適正である】 ・地域には何人も防災士がいるので、防災会と学校とで連携した取組もできるのではないか。
	17	あらゆる危機を想定した訓練、危機管理体制が構築されている。	A	3.6	A	3.5		
	18	体力向上に向けた適切な計画と実施がされている。	B	3	B	3.2		
	19	安全点検を適切に行い、安心・安全な環境作りに取り組んでいる。	A	3.8	A	3.9		
	20	児童の健康を把握し、適切に対応している。	A	3.8	A	3.9		
	◎毎朝の立哨指導、下校指導、通学班指導、一斉下校など、安全指導を計画的に実施できた。 ◎自動車教習所職員による交通安全教室を全学年で実施できた。 ◎毎月の安全点検を全職員で実施し、修繕か所は迅速に修繕し、安心・安全な環境を整えた。 ◎毎朝の健康チェックを「さくら連絡網」を活用し、保護者と連携して行うことができた。 ◎体力向上に関わる取組を増やすことができた。来年度も継続していく。 ▲積極的に外遊びをしない児童も多い。遊びのコーナーを作る、様々な遊びを紹介するなど工夫が必要。 ▲体育授業では毎時間十分な運動量を確保し、運動の楽しさを感じさせ自発的に運動する児童を育成する。 ▲どの学年も校庭を走るなど、授業で共通して行う運動を決めて、継続的に行っていく。 ▲月に一度程度、ロング昼休みを設定し、外遊びを推奨する。 →日課の変更実施 ― 実施案作成（体力向上委員会）						
Ⅴ 特別支援教育	21	特別に配慮を要する児童について、情報を共有し、指導にあたっている。	A	3.9	A	3.8	A (3.8)	【適正である】 ・引き続きの支援体制をお願いする。
	22	特別支援教育の視点に立った、教育の推進に努めている。	A	3.6	A	3.8		
	◎月例生徒指導・教育相談委員会を通し、情報を共有することで組織的支援体制で児童・保護者へ対応できた。 ◎支援が必要な児童へのサポーター配置を計画的に行った。 ◎特別支援教育に係る研修を複数回実施したことで、教職員の意識を高められた。 ▲PBS（ポジティブな行動支援）に係る研修を来年度も実施し、学校全体で同一方向の支援体制を整える。→職員研修を重ね、組織体制を整えていく（教育相談委員会）						

Ⅵ 家庭・ 地域連 携	23	ICTを活用して積極的に、たよりやホームページ、学校配信メール等で本校の教育活動や児童の様子などの情報発信に努めている。	A	3.7	A	3.7	A (3.47)	【適正である】 ・幼保小中の連携が図られているのは、とてもよい。
	24	幼・保、小、中、高の連携が図られている。	B	2.9	B	2.9		
	25	学校配信メール、連絡帳、電話、個人面談、教育相談等で保護者との連携を図っている。	A	3.7	A	3.9		
	26	学校応援団や地域の教育力を活用した教育活動を行っている。	B	3.2	A	3.4		
	◎学校からの情報を様々な方法で、迅速に丁寧に発信することに努め、保護者アンケートからも高評価を得られた。 ◎学校配信メール「さくら連絡網」を活用した情報発信を週平均2回以上、個別に連絡が必要な家庭へはその都度を配信した。 ◎学校ホームページを通して、各種便りや学校での児童の様子について情報提供ができた。 ◎全学年（学級）が学年（学級）便りを毎週発行し、児童のがんばったことや保護者への連絡事項を伝えられた。 ◎幼・保・小・中の連携行事を3年ぶりに再開できた。 ◎「おや小応援団」の防犯部による毎日の登下校の見守りは、地域の教育力の高さを感じる。 ◎「おや小応援団」の学校図書館整備、読み聞かせ活動の再開。除草活動を主とする環境整備部を新設できた。 ▲コロナ禍で減っている異校種間の情報交換を行う機会を増やし、児童や保護者の不安感を拭えるとよい。→積極的に交流実施 ▲学校応援団員の高齢化や人数の減少が課題である。チラシを作るなどして団員を募集し活性化していく。→チラシ作成予定							
Ⅶ 児童の 生活・ 学習・ 健康	27	児童は、進んであいさつをしている。	B	2.9	B	2.9	B (3.04)	【適正である】 ・学校生活には家庭での習慣も出てしまうと思う。家庭や地域と連携しながら児童を育成し、どちらも同じようによくなっていくとよい。 ・様々な児童がいる中、教職員による指導はご苦労もあると思うが、よろしくお願いする。
	28	児童は、右側廊下歩行を意識して生活している。	C	2.7	B	2.9		
	29	児童は、主体的に学習する態度が身に付いてきている。	B	2.8	B	3.0		
	30	児童は、授業中ノートや連絡帳、テストなどの字を丁寧に書いている。	B	3.1	B	3.3		
	31	児童は、体力向上及び健康の保持増進を図ろうとしている。	B	3.3	B	3.1		
	◎よくできている児童を褒めることで、周りの児童の態度に変化が見られ、全体的に向上できた。 ◎あいさつや廊下歩行の児童会キャンペーンで意識が高まり、実践できる児童が増えた。 ◎単元内自由進度学習に取り組む姿勢は主体的であった。自分から計画することで、主体性が育成できる。 ▲できていない児童に目がいってしまいがちだが、できている児童を称賛する機会を増やしていく。→集会の場などを活用 ▲挨拶運動をいろいろな学年に体験させることで、意識を高めていく。→実施案検討（生徒指導・特別活動部） ▲字の丁寧さの指導は来年度も継続していく必要があると感じる。目をかけ、声をかけ、習慣化させていく。→指導を継続 ▲文字指導は朱書きで直させるばかりでなく、少しでも丁寧に書けている字に丸を付け、よいところを認め、意欲を高めていく。→全職員共通理解							